

一般演題

1. 肺疾患における血流および換気シンチグラフィの 評価一症例を中心に—

山岸 嘉彦	隈崎 達夫	椎葉 忍
本多 一義	中沢 英治	西川 博
志田 幸雄	疋田 史典	奥山 厚
細井 盛一	三谷原重雄	青海川秀敏
菅原 謙三	有賀 長規	(日本医大・放)

肺疾患に対し、血流および換気シンチグラフィを併用し、一部は気管支造影、血管造影をも行った。最近約一年間に51例を経験した。その中から特に興味ある症例を供覧した。

1. 42歳男 左巨大縦隔腫瘍手術後
2. 51歳男 両上巨大ブラ
3. 60歳男 右肺門部扁平上皮癌
4. 32歳男 左肺門部扁平上皮癌
5. 13歳男 右肺門動脈低形成
6. 42歳女 大動脈炎症候群

以上の中 3. 4. 5. の例は我々がすでに述べた MAA における unilateral hypoperfusion lung に属するものであった。このような症例を含め、肺癌、術後および血管病変に特に有用であった。

2. 血管病変における RI イメージと血管撮影像について

奥山 厚	山岸 嘉彦	隈崎 達夫
椎葉 忍	本多 一義	中沢 英治
西川 博	志田 幸雄	疋田 史典
細井 盛一	三谷原重雄	青海川秀敏
菅原 謙三	有賀 長規	(日本医大・放)

血管病変における RI イメージと血管撮影像を比較し、RI イメージの有用性について検討した。

対象は、シンチグラフィ、血管撮影の検査時期がともに1ヶ月以内に施行された18例24部位につき検討した。血管病変の内訳は、解離性動脈瘤 De Bakey IIIa 3例, IIIb 3例, 解離のない胸部大動脈瘤1例, 腹部大動脈瘤4例, 総腸骨動脈瘤1例, 大動脈炎症候群3例, 閉

塞性動脈硬化症2例, 閉塞性血栓性動脈炎1例の計18例である。検索方法としては、動脈瘤については、部位、形態、大きさ、他血管の involvement、隣接臓器への影響、解離のある場合には、entry, re-entry を、閉塞性疾患については、部位、範囲、側副血行路、病変より末梢側の血行について、RI イメージと血管撮影像をそれぞれ比較検討した。

RI の有用性は、1) 動脈瘤については、部位、形態をある程度判断できる。2) 閉塞性疾患について太い血管であれば、部位、範囲、程度がわかり、病変より末梢側の血行を知るには、血管撮影像より優れている事がある。3) 血管撮影の施行が困難な例に対しても、非侵襲性で、くり返して施行できる為に特に経過観察に優れている。

3. COPD における ^{133}Xe washout と N_2 washout の比較検討

森 豊	福田 安	勝山 直文
川上 憲司		(慈恵医大, 放)
島田 孝夫		(同 3 内)
富永 滋		(順天堂大, 呼内)

閉塞性肺疾患を対象に、 ^{133}Xe および N_2 の washout 法について検討した。

^{133}Xe washout (T 1/2) は、患者背面よりシンチカメラを指向し、全肺における放射能減衰カーブより求めた。 N_2 washout (T 1/2) は、 O_2 反復呼吸時の N_2 濃度の変化を口腔部において N_2 メータで測定した。

肺を換気良好部 (F) と不良部 (S) に大別した場合、 ^{133}Xe washout は、換気良好部および不良部の肺容量 (V_F , V_S) に左右されるが、 N_2 washout は両部の換気量 ($\dot{V}_F$, $\dot{V}_S$) に左右される。今回、 V_F , V_S , $\dot{V}_F$, $\dot{V}_S$ をパラメータにとり、閉塞性肺疾患を A: $V_F \geq V_S$, $\dot{V}_F \gg \dot{V}_S$, B: $V_F \gg V_S$, $\dot{V}_F \gg \dot{V}_S$, C: $V_F \div V_S$, $\dot{V}_F \div \dot{V}_S$ の3型に分けて ^{133}Xe と N_2 washout の異常度について検討した。

A 型は N_2 法で正常、 ^{133}Xe 法で異常を示す型で最も多かった。B は N_2 法、 ^{133}Xe 法ともに正常を示し、限局性小病変にみられた。C は老人肺に多く、 N_2 法、 ^{133}Xe 法ともに異常として扱われた。